

2006年7月3日
日本銀行盛岡事務所

岩手県金融経済概況

1. 概況

県内経済は、製造業を中心として緩やかに回復しつつある。

すなわち、生産動向は、IT関連分野や自動車関連分野を中心に全体として回復傾向にあり、こうした状況を反映して雇用情勢も着実に改善している。

一方、最終需要の動向をみると、個人消費は、一進一退の動きとなっている。住宅投資は、貸家を中心に減少している。公共投資は、減少傾向にある。

この間、企業の業況感^(注)は、緩やかに改善している。

(注) 県内企業の最近の業況感の詳細については、「岩手県企業短期経済観測調査結果(2006年6月)」「(2006年7月3日、日本銀行盛岡事務所)」を参照。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、家電販売が堅調に推移しているほか、大型小売店の売上げも一部に持ち直しの兆しが窺われるものの、全体としては一進一退の状況となっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上げは、主力の夏物衣料品の販売が気温の上昇により好調な滑り出しを見せたが、その後の天候不順から再び伸び悩むなど、天候に左右される一進一退の状況が続いている。また、量販店の売上は、前年比減少幅が縮小傾向にある。

(家電量販店売上高)

家電売上高は、堅調な動きを続けている。白物家電の販売が低調であるものの、地上デジタル放送開始エリアの拡大やサッカーワールドカップ開催効果もあって、薄型テレビやDVDレコーダーの販売が好調に推移している。

(乗用車新車登録台数)

5月の乗用車新車登録台数(軽自動車を含む)は、前年を下回った。これまで堅調に推移してきた軽自動車が前年の大幅増加の反動から減少したほか、小型車・普通車の減少が続いている。

(2)住宅投資

5月の新設住宅着工戸数は、前年を下回った。貸家の減少が続いているほか、持家、分譲とも減少している。

(3)公共投資

公共工事請負金額をみると、予算規模の縮小から減少傾向にある。

3.生産動向

生産面では、IT関連分野での回復や自動車関連分野での増産等から、全体として回復傾向にある。

(電気機械)

半導体では、海外の携帯電話向け等を中心に回復傾向にある。電子部品については、自動車、パソコン向け等を中心に高水準の生産が続いている。また、情報通信機械では、移動局通信装置の生産が増加している。

(輸送用機械)

完成車は、輸出車中心に高操業を続けている。また、自動車部品では、海外需要が好調であることから、フル生産を続けている。

(設備関連)

工作機械では、内外の自動車および同部品メーカーからの豊富な受注残を抱え、フル操業を続けている。

(その他)

鉄鋼(線材)は、自動車向けを中心に操業度を高めている。

合板、セメントやコンクリート二次製品など建設関連品目では、一部に関東を中心とするマンション関連の受注増加もみられるが、公共投資の減少等を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

紙・パ(段ボール原紙)は、食料品・飲料品向け需要の好調から、高水準

の生産が続いている。

4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、有効求人倍率は、製造業での生産回復等を背景として、着実な改善が続いている。

所得面をみると、雇用者所得は前年を下回って推移している。

5. 企業倒産

企業倒産をみると、落ち着いた動きが続いている。

6. 金融動向

預金は、個人預金等が堅調に推移しているが、公金預金が減少したことから、ほぼ前年並みの水準となっている。

貸出は、法人向けが、製造業の一部や不動産賃貸業向け等で動意が窺われるものの、建設業等向けを中心に減少している。一方、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移し、地公体向けも増加していることから、全体ではほぼ前年並みの水準となっている。

以上